

盛岡地区かわまちづくり

■盛岡市では、更なる観光客数の増加を目指し、まちづくりと一体となった水辺利用を推進するため平成21年5月(平成29年3月に変更)に「盛岡地区かわまちづくり計画」を登録。

■本事業は、地域のまちづくりの取組と連携し、まちづくりと一体となった管理用階段・通路等の水辺整備やJR盛岡駅に隣接する木伏緑地(きっぷしりよくち)の改修等により、賑わいのある水辺空間を創出するとともに地域の観光振興を図ることを目的に実施。

■国土交通省は、ハード整備として、令和2年度までに低水護岸(階段、船着場)や管理用通路(階段)などを整備し終えており、現在モニタリング調査を実施中(事業完了後5年間)。令和7年度までにモニタリングを終えて事業完了。

■かわまちづくりとしては、盛岡市を中心に勉強会や懇談会などを今後も継続して実施する。



盛岡地区かわまちづくり

盛岡市の現状と背景

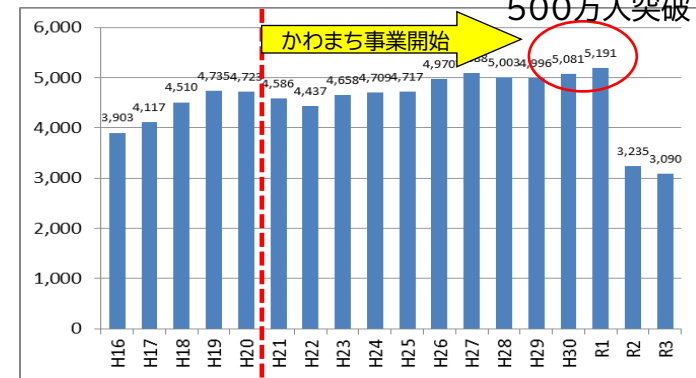
■かわまちづくり登録されている盛岡地区は、盛岡市の中心部を流れる北上川、中津川の河川空間を活用することで、街中の賑わいの創出や観光振興に繋げる多くの取組を、市民・地域団体・民間、盛岡市・国が連携し、整備・活用・維持管理を実施している。

■盛岡市は、平成26年度に策定した「盛岡市観光推進計画」で平成31年度迄に年間500万人の観光客誘致を目標としており、平成30年には500万人を超過し、令和1年には519万人に達した(新型コロナウイルスの影響により令和2～3年は減少)。

■一方で、北上川に隣接した木伏緑地にはPark-PFIを活用した商業施設があり、利用者や民間事業者の意見を反映して河川空間に整備した散策路・階段・船着き場などとの相乗効果により、コロナ禍においても市民の日常的な居場所や観光客が訪れるスポットになっている。

■令和4年度には、盛岡地区はかわまちづくり大賞を受賞したほか、令和5年1月には、ニューヨーク・タイムズが発表した「2023年に行くべき52箇所」で盛岡市が2番目(1番目はロンドン)に紹介されるなどインバウンド促進に向けて大きな追い風となっている。

盛岡市の観光客の推移



かわまち大賞受賞後の記念写真

「かわまちづくり事業」 木伏緑地 の にぎわいと 北上川 との ふれあい

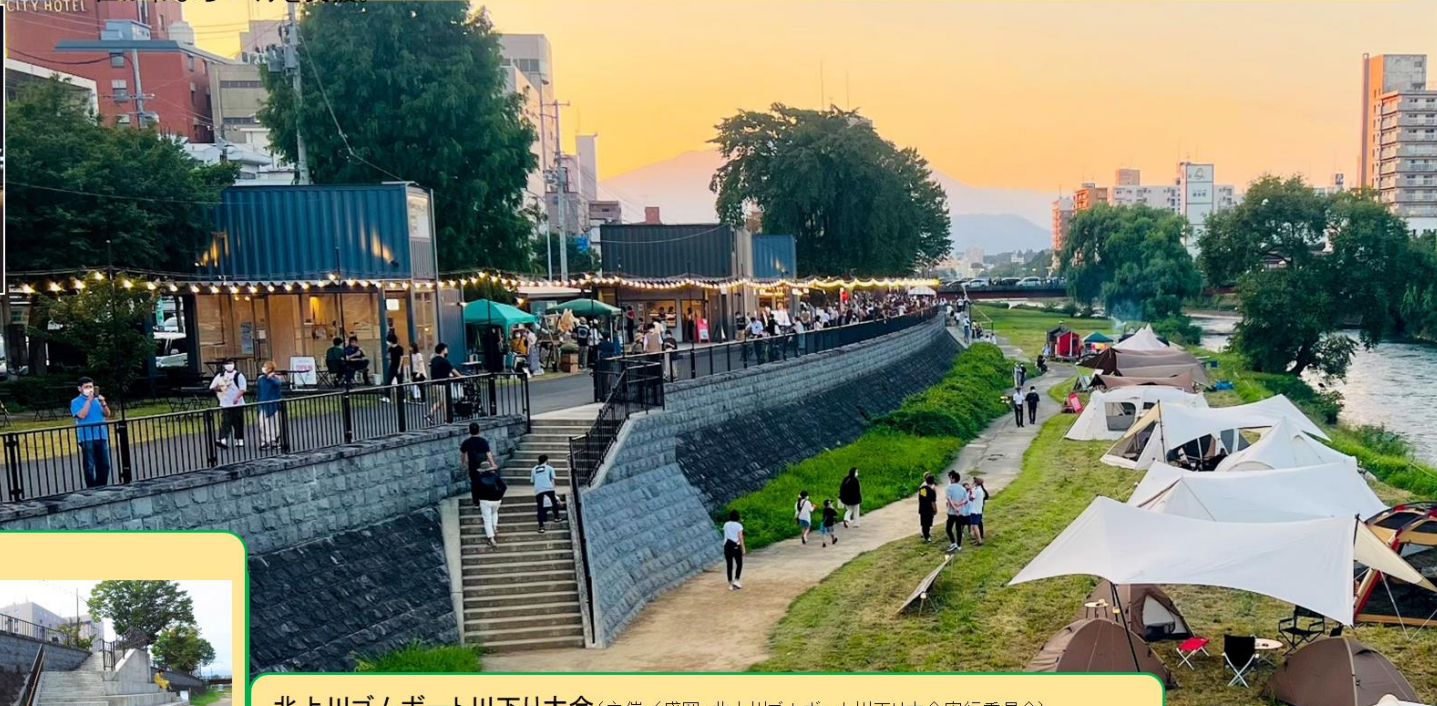
盛岡駅から歩いて3分。中心市街地へとつながり歴史ある開運橋に隣接した木伏緑地は、盛岡市によるPark-PFI事業(※)により令和元年9月にリニューアルオープン。飲食店、広場の整備により盛岡市民や観光客の憩いの場となっている。北上川ではキャンプや乗船会などのイベントが開催されている。

木伏緑地の沿革

- ・昭和60年 都市緑地として供用開始(A=0.4ha)
- ・平成2年 手づくり郷土賞受賞(国土交通大臣表彰)
- ・平成20年 盛岡地区かわまちづくり事業スタート
- ・平成29年 都市景観賞受賞(盛岡市長表彰)
- ・令和元年 木伏緑地リニューアルオープン
(事業者:ゼロイチキュウ合同会社)

かわまちづくり事業

市町村、地元住民、民間事業者及び河川管理者が連携し、実現性の高い水辺の整備や利用に係る取り組みを行う事業。盛岡市の中心市街地と自然豊かで良好な観光資源である北上川、中津川を結びつけ、盛岡駅から人の流れを生み出し、賑わい創出や観光振興に繋げる取組みを支援。盛岡市では、Park-PFIにより民間事業者と連携し木伏緑地を再整備。国土交通省では木伏緑地再整備に併せ水辺とをつなぐ階段の整備や案内看板の設置、船着き場の整備を行い盛岡地区かわまちづくりを支援。



整備内容

スロープ



階段



もりおか港



北上川ゴムボート川下り大会(主催/盛岡・北上川ゴムボート川下り大会実行委員会)

盛岡の夏の風物詩として1976年から北上川ゴムボート川下り大会が開催。四十四田ダム付近のスタートから南大橋のゴールまで毎年約600艇以上(タイムレース部門とフリーレース部門)が参加。



四十四田ダムのスタート地点



(※) Park-PFI (公募設置管理)の概要

・都市公園において飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度のこと。

盛岡地区かわまちづくり

河川敷を利用した社会実験の実施

河川敷を利用して、様々なイベントを実施。
毎年多くの来場者があり、オープン化に向けた社会実験に取り組んでいる。



アウトドアサウナと舟運



河川敷でのYOSAKOI



木伏・緑地での映画上映

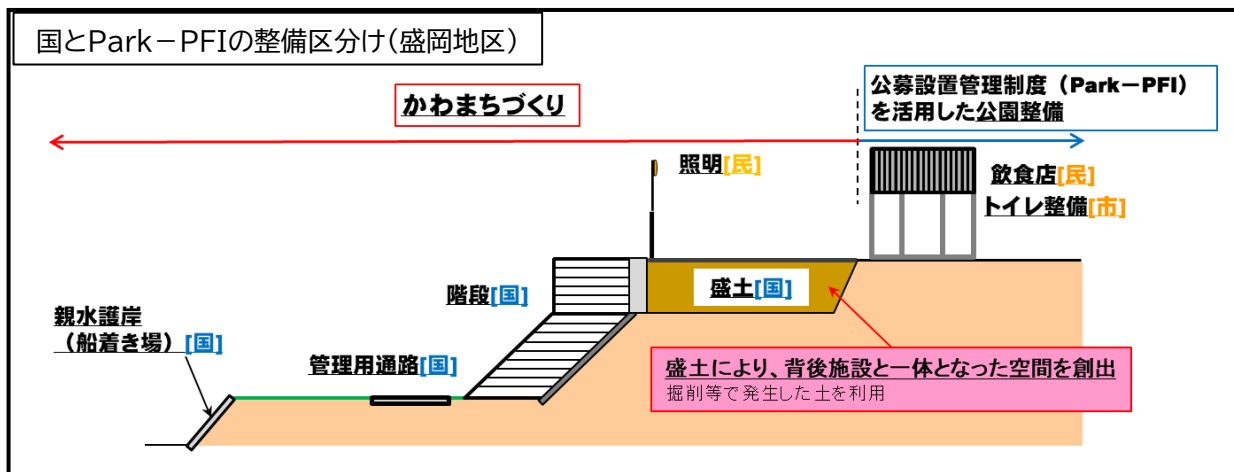


まちなか河川敷キャンプ実験

盛岡地区かわまちづくり

北上川【木伏緑地前の河川敷の整備内容】

かわまちづくりと公募設置管理制度(Park-PFI)を活用した公園整備が連携した一体的な空間整備により、市民の集いの場、憩いの場、地域の賑わい拠点が形成された。



環境整備事業で国で整備した管理用通路(階段)



環境整備事業で国で整備した低水護岸(船着き場)



北上川の舟運復活に向けた取組

- 令和5年5月13日(土)に盛岡市開運橋上流右岸の「もりおか港」において「北上川舟運川開き」が開催されました。
- 木造船「もりおか丸」(10名乗り)に乗船し、舟運文化の復活による川と街の繋がり、観光振興、地域活性化など魅力あるまちづくりに繋がることが期待されています。

主催：盛岡地区かわまちづくり(舟運)実行委員会
 (国土交通省 岩手河川国道事務所・
 北上川ダム統合管理事務所、盛岡市、
 北上川に舟っこを運行する盛岡の会)
 来場者：約100名

北上川舟運・川開き
 令和5年5月13日(土)
 9:30 もりおか港
 新山河岸

**北上川フェスタ
 IN MORIOKA**
 令和5年6月17日(土)
 9:30 もりおか港
 新山河岸

上記以外の運航予定日
 令和5年5月27日(土) 6月10・24日(土)
 9月9・23日(土) 10月7日(土) その他
 第2第4土曜日、事前にお知らせ下さい。

主催 盛岡地区かわまちづくり(舟運)実行委員会

構成団体 国土交通省 岩手河川国道事務所・北上川ダム統合管理事務所
 盛岡市、北上川に舟っこを運航する盛岡の会

HP: <https://www.kitakamigawa-fune.net>
 Email: mulder@agate.pala.or.jp

舟

舟運文化の復活
 川と街の繋がり
 観光振興、地域活性化

北上川舟運・川開き
 北上川フェスタ
 IN MORIOKA
 令和5年5月13日(土)
 9:30 もりおか港
 新山河岸

料金 500円

主催 盛岡地区かわまちづくり(舟運)実行委員会
 構成団体 国土交通省 岩手河川国道事務所・北上川ダム統合管理事務所
 盛岡市、北上川に舟っこを運航する盛岡の会



北上川を舟運するもりおか丸(左に木伏緑地、河岸にもりおか港、背景には岩手山)

令和6年の舟運(社会実験)は10月までに9回を予定。
 また、6/15(土)には北上川フェスタを開催予定。



船着き場「もりおか港」



歩道空間



川開き式典の様子



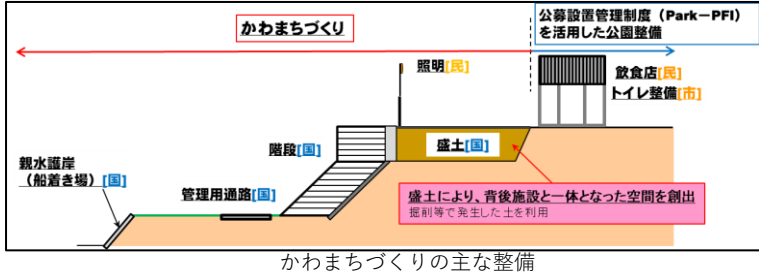
もりおか港から第1便の出航

もりおか丸から見た北上川

とても静かに運航するもりおか丸では、船頭の話も聞きながらゆったりとした別空間の時間が味わえる。

北上川と岩手山

終点の新山河岸



かわの駅名



終点の新山河岸(しんざんがし)

- 令和5年6月17日(土)、岩手県盛岡市、開運橋上流右岸河川敷にある「もりおか港」(R3年度開港)で、『第6回北上川フェスタ』が開催されました。もりおか丸は5月13日の川開きから舟運を開始しており、この日で今年33度目の舟運になります。
- 「北上川フェスタ」は藩政時代に北上川で盛んに行われていた舟運を復活し、観光や新しい盛岡のまちづくりを進める活動を地域の方々に広めることを目的に、近隣商店街と連携して平成29年度から開催しています。
- その他、岩手河川国道事務所ではゴムボード体験周遊を実施。約50名の一般の方々に北上川への親しみを感じていただきました。

月 日 : 令和5年6月17日(土)
会 場 : もりおか港 (岩手県盛岡市 開運橋上流河川敷)
主 催 : 盛岡地区かわまちづくり(舟運)実行委員会
 (北上川に舟っこを運航する盛岡の会、盛岡市
 国土交通省岩手河川国道事務所、北上川ダム統合管理事務所)



北上川フェスタ会場の全景



北上川フェスタ開会式の様子



大反響のもりおか丸



もりおか港から出港するもりおか丸



盛岡市のかわまち大賞お披露目会



北上川フェスタの第1便もりおか港から出港!



もりおか港から出港するゴムボード



「ゴムボード体験周遊」と河川敷の乗馬体験

(参考)盛岡地区 オープン化区域の全景写真①



(参考)盛岡地区 オープン化区域の全景写真②



旭橋

開運橋

不来方橋

明治橋

盛岡駅

北上川

中津川

北上川

雲石川

(参考)対象区域及び木伏緑地の全景写真

